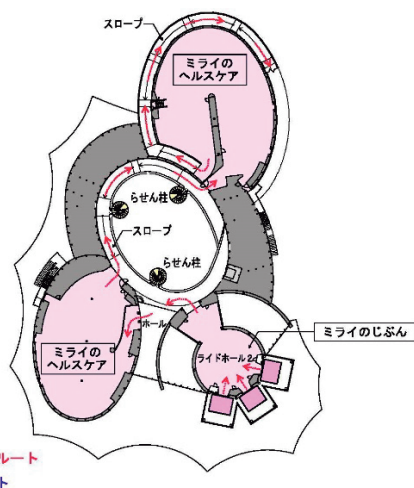
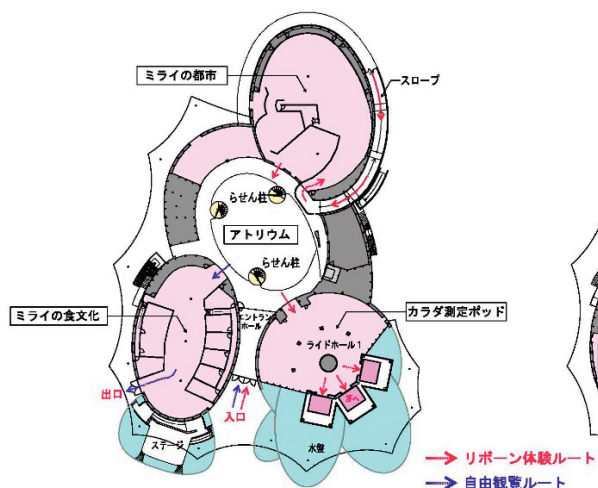
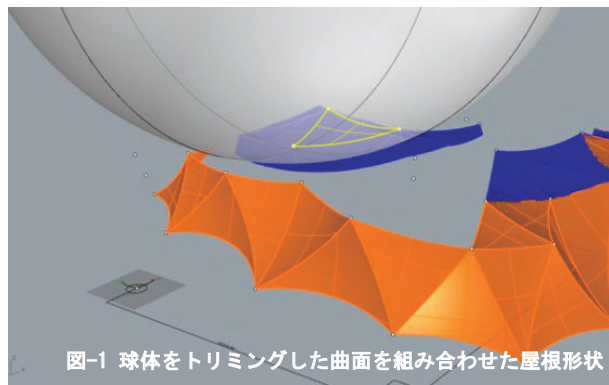
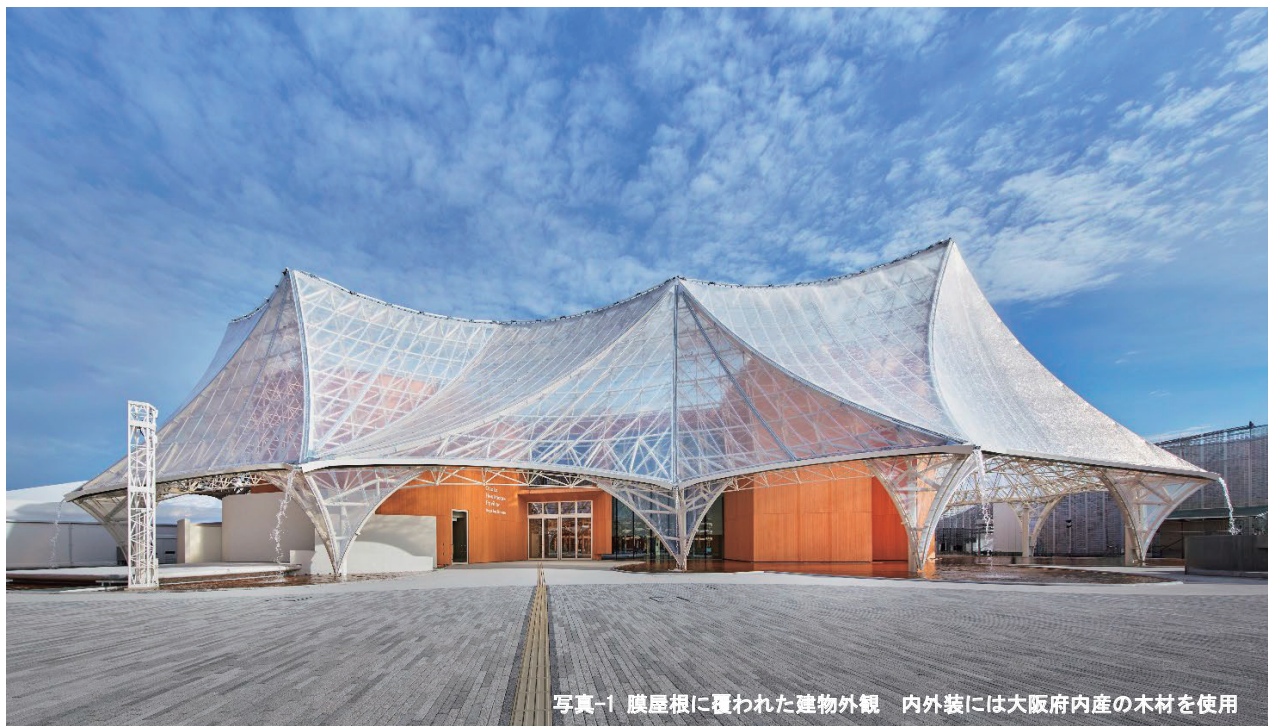


2025年日本国際博覧会 パビリオン・施設の紹介 (No.8)

大阪ヘルスケアパビリオン Nest for Reborn

【設計】株式会社 東畑建築事務所



来館者は、エントランスを入りアトリウムを経てライドに乗り込み2階へ向かう。緩やかに下るスロープを回遊しながら各展示室を巡り、ミライのヘルスケア、ミライの都市を体験し、アトリウム、ミライの食文化へと降りていく。

2025年日本国際博覧会 パビリオン・施設の紹介 (No.8)

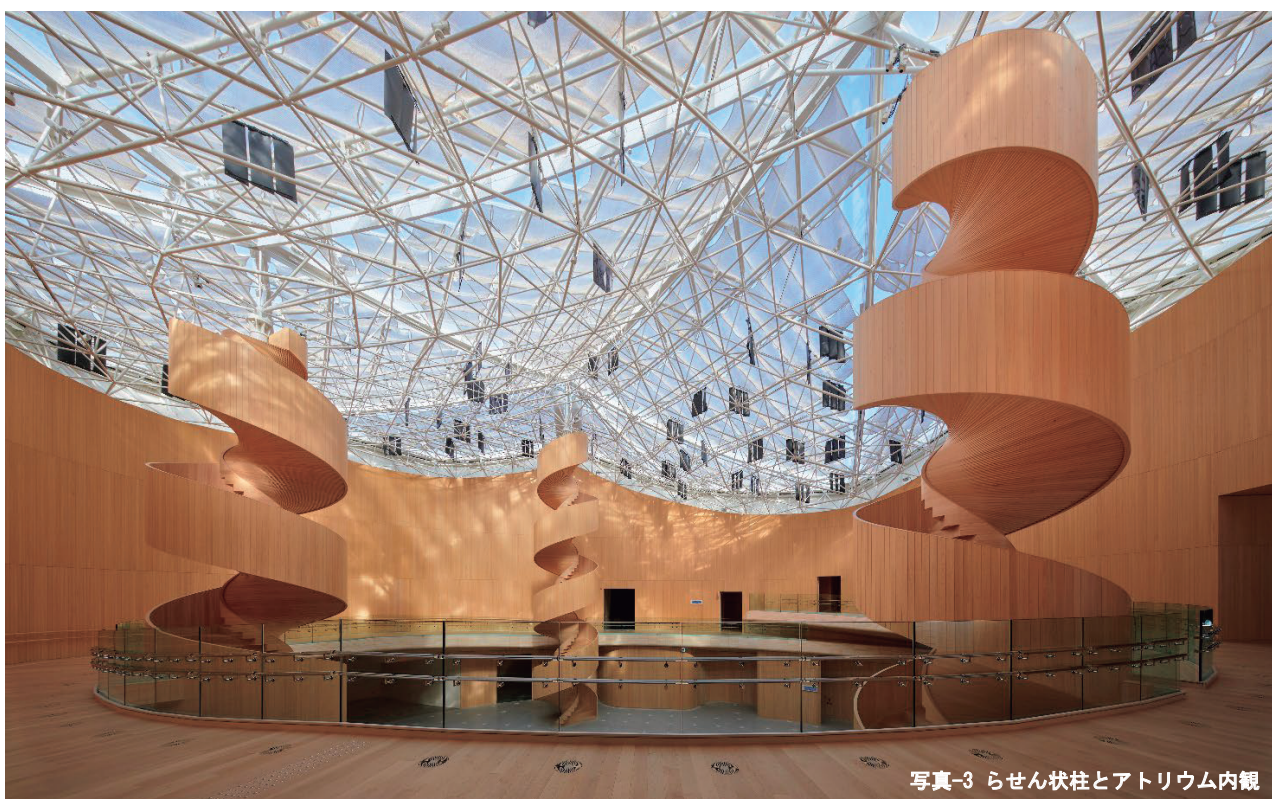


写真-3 らせん状柱とアトリウム内観



写真-4 床吹き出し方式による空調



写真-5 建物夕景

【パビリオンの概要】

「大阪ヘルスケアパビリオン」は、大阪府、大阪市が出展するパビリオンである。「REBORN (リボーン)」をテーマとし、「人」は生まれ変わる、新たな一歩を踏み出す、という2つの意味を込めている。「いのち」や「健康」の観点から未来社会の新たな価値を創造するとともに、開催都市大阪の活力と魅力、そしてSDGs達成への取り組みを世界の人々へ発信するものである。

【設計概要】

アトリウムや展示空間を楕円形とし、それらが有機的に重なり合う構成としており、全ての楕円がスロープによって連続的にひとつながりの回遊性を生み出す計画となっている。内外装には大阪府内産の木を多用することで、木の温かみや香りを感じられる空間を実現した。

楕円はREBORN (生まれ変わる＝タマゴ) から、アトリウム屋根を支える3本のらせん状柱はDNA (生命の設計図) から着想を得た形態である。

建物を覆う特徴的な屋根面は大きな球体の一部をトリミングした曲面同士をつなぎ合わせて創られている。曲面屋根には透明なETFE膜を採用し、その膜屋根全体を包み込むように水が流れ、水盤に注ぎ込む。木の温かみと香り、木漏れ日のような穏やかな光に包まれるアトリウムは、「水」と「木」に支えられてきた「水都大阪」の文化を再構築し、自然を感じることが出来る「次世代の環境共生建築」を目指した。

写真-1～5は、提供：(公社) 大阪パビリオン

協力：2025年日本国際博覧会協会